

先哲
格言
修身要訓

中村鼎五編

一

257

378

大日本教育會館

一	二	三	七
八	架	〇	册
函		號	

K110.1
106
1

中村鼎五編

卷一

先哲格言 脩身要訓

東京 中近堂藏

先哲格言 脩身要訓

例言

ハ小學校修身ノ教科用書ニ充ツル
カ為先兒童ニ適當セル和漢先哲ノ格言
ヲ擇ヒ審ニ難易ノ度ヲ察シ以テ編輯ノ
體ヲ定メタルモノナリ
一先哲ノ格言ニシテ修身ノ規箴トナスヘ
キモノ之ヲ數フルニ違アラスト雖兒童

先哲格言

例言

中近堂藏

ヲシテ記憶セシムルニハ凡其度ヲ計ラサルヘカラス本書ハ深ク此ニ意ヲ用キタリ

一 凡ソ兒童ヲ導クニ日常近易ノ事ヨリ始メサレハ薰陶ノ功ヲ奏スルヲ得ス書中格言列載ノ順序錯雜スルカ如キハ即之ヲ斟酌セルカ爲ナリ

一 格言ヲ授クルニハ其意義ヲ講釋シ兒童

ヲシテ之ヲ了得セシメサルヘカラサル
一 ハ論ヲ俟タス尚適切ノ事實ヲ引テ其感覺ヲ深切ナラシメン
一 ハ要ス故ニ本書ニ列載スル格言ニ據リテ修身事實録六冊ヲ編輯シ以テ口授ノ用書ニ充ツ
一 本書一卷ヨリ五卷ニ至ル五冊ハ初等科六卷ヨリ十一卷ニ至ル六冊ハ中等科ノ教科用書ニ充ツヘキモノトス首卷一冊

ハ特ニ初等科初級ノ爲メニセルモノナ
リ

先哲格言 修身要訓 卷一

近江中村鼎五編

第一章

○父母につかふるふい

温和と主とすべし 家道訓

○父母の教ひつゝみ

て、きくべし 初學訓

○父母われをよびたま

わび、早く行くべし 同上

○兄の弟に、愛ふかく、弟

の兄に、敬あつくすべし

同上

○老者を見てハ、之を敬

し、幼者を見てハ、之を愛

せよ 朱子家訓抄

○凡愛敬を行ふにハ、信

を本とすべし 大和俗訓

第二章

先哲修身要訓 卷一 二 中近堂藏板

○人の人たる所以は、禮義なり 禮記

○人に交はるふを、常に

禮義と正しくとべし 大和俗訓

○禮を知らざる人の、狂

人に同じ 同上

○人の嫌ふことを言ふ

べからず 童子訓

○志正しまは、萬事の本

なり 同上

○邪に曲める事を行ふ

べからず 同上

第三章

○善にならひなるれば

善人とある童子訓

○惡にならひなるれば

惡人となる同上

○己の欲せざる所の人

に施すこと勿れ論語

○人を損して己を利す

ること勿れ朱子家訓抄

○過ちては改むるに憚

ること勿れ論語

○過ちて改めざるこれ

と過と謂ふ 同上

第四章

○萬の事、まことと主と

すべし 初學訓

○誠い、妄語せざるより

始まる 司馬溫公語

○智者い、言と慎え、行と

慎みて、身の福をあす 賈誼新書

○愚者い、易く言ひ、易く

行ひて、身の蓄をなす 同上

○善い、小なるも、益あし

と謂ふべからず 同上

○ 悪い小なるも、傷あし
と謂ふべからず 同上

第五章

○ 怒るところへどるゝ争
の本なり 大和 俗訓
○ 大なる過ゝ、少しの忍

びどるより起る 畜徳 録

○ 和げば仇あく、忍べば

辱なし 省心 録

○ 事をなすに、始と慎み、
終と慮れば、過ち少あく、
悔すくあし 初學 知要

○ 惡に趣き易し故ふ

懼るべし五常訓

○ 善ふに進む難し故に

勉むべし同上

第六章

○ 敬の一心のまもり、萬

善の根本あり大和俗訓

○ 敬怠に勝てば吉なり

怠敬ふ勝てば凶なり荀子

○ 自ら敬すれば人も亦

己と敬す讀書録

○ 自ら慢れば人も亦己

と慢る 同上

○吾が能と矜るは、恥な
り、吾が不能と飾るも、亦

恥ふり 畜徳録

○常に人ふ謙りて、吾身
と誇るべからず 文訓

先哲格言 脩身要訓 卷一 終

先哲格言 脩身要訓 卷一 終

格言修身要言

卷一

中近堂

官許

東京中近堂

先哲
格言
修身要訓

中華書局
三

K110,1

2

鎮江法會官教

七册

三〇號

二架

一八函

K110,

106

2.